
日本職業・災害医学会会誌 第53巻 第1号
Japanese Journal of Occupational Medicine and Traumatology
Vol. 53 No. 1 January 2005

巻頭言

独立行政法人化を契機にさらなる発展を

原田 英雄

香川労災病院院長

労災病院群を統括する労働福祉事業団が平成16年4月から独立行政法人化して、引き続き勤労者医療を担当する運びになった。

「特殊法人等整理合理化計画」が平成13年12月19日に閣議決定され、それをうけて、「独立行政法人労働者健康福祉機構」法案が内閣提出法律案として第155回臨時国会に提出されることが平成14年10月18日の閣議で決定された。現在、開催中の臨時国会で個別法が審議されており、われわれは固唾をのんでその行方を見守っているところである。どのような事業様態に決着するのか、その詳細に注目しているが、いずれにしても勤労者医療の推進が国にとって必要不可欠なライフラインのひとつであることが認められるに到った意義は極めて大きい。

われわれは、こうなることを信じて待つていた。なぜならば、勤労者医療の重要性は少しも減じてはいないからである。実際、労働災害は長期的には減少してきているが、従来型の労働災害を中心に、今なお、毎年55万人もの労働者が被災し、そのうち休業4日以上のが13万人余を占めている。死亡者数については、昭和56年に3,000人を下回って以来減少傾向にあり、平成10年に2,000人台を割り1,844人となったが、平成11年には1,992人と再び増加に転じ予断を許さない状況となっている。また、一度に3人以上が被災する重大災害は年間200件前後で推移しており、これらについても減少の傾向は認められない。一方、じん肺、有機溶剤中毒等の職業性疾病は依然としてあとを絶たず、年間8,000人近くの労働者が罹患している。アスベスト関連疾患（肺癌、胸膜中皮腫、腹膜中皮腫、心膜中皮腫等）はむしろ増加傾向にある。産業中毒の分野についてみると、酸素欠乏症、硫化水素中毒、一酸化炭素中毒等の急性疾病は、発生件数の増減が繰り返されている。また、現在50,000種を超える化学物質が労働の現場で使用されており、化学物質に係る法定特殊健康診断における有所見者数は、年間約3万人に及んでいる。最近では、廃棄物処理業におけるダイオキシン発生のように、人体への健康影響が強く危惧され、社会的に大きな問題となるものも出てきている。腰痛については広く様々な業種・作業において、年間5,000件以上発生している。仕事や職場生活に関する強い不安、悩み、ストレスを感じている労働者の割合は増加し、平成9年の労働者健康状況調査では約63%に達している。また、労働者の自殺者数は、平成9年の約6,200名から平成12年には約8,000名と増加している。脳や心臓の疾患で死亡したため、あるいは後遺症のために労災認定された事例は本年前半年で既に115件と昨年度全体の143件に迫っている（昨年12月に認定基準を緩和）。過労が原因の自殺や、うつ病などの精神障害の労災認定は44件と昨年度全体の70件の半分以上をすでに上回っている。生活習慣病の予防対策にも取り組んで、勤労者のQOLの向上と健康寿命、勤労寿命の延長に貢献する必要がある。

かくしてひとつのハードルをクリアしたとは言え、今後われわれにも肝（きも）に銘ずべき点はいくつかある。その第一はコスト対効果の改善と経営改善による一層の自立・互助である。第二は、作業関連疾患の予防・治療・リハビリ等に関してグループ臨床研究によりエビデンスを蓄積・報告する活動を一層活性化することである。さらに言えば、大きな困難を伴うが、アウトカムを提示することである。第三には対外活動を一層活性化して外部の方々の理解が得られるようにすることである。産保センターとの協力重視はもとより、職場への出前講座、産業医育成活動への協力、卒後臨床研修医の勤労者医療へのエキスポージャー、市民公開講座の持ち回り開催、日本職業・災害医学会および学会誌への貢献の一層の推進である。この観点から、最近の日本職業・災害医学会が臨床医や基礎研究者のみならず、看護師等コメディカルを加えて益々活性化し、さらに、学会に併せて市民公開講座を開催している姿は誠に喜ばしい。他学会の例を参考にすれば、学会場の一角に託児所を設営すれば参加者はもっと増えると予測される。学会の活性化が学会誌への投稿活動に反映される策も必要であろう。学会誌をやせさせてはならない。学会誌発展策の1例

として、学会発表の各セッションの司会者が優秀演題を選定・推薦して学会誌への投稿を強く勧める。そして、優秀論文には学会賞あるいはyoung investigator's awardをもって表彰する制度である。さらに上策をお持ちの方も多いいない。